

子どもの声 寄り添って

「石巻市学校わくわくプラン事業」中部地区の教育講演会が21日、石巻中で開かれた。仙台大の氏家靖浩教授（教育相談）が「いじめ案件に対する初期対応の重要性について」をテーマに講演した。

氏家教授はいじめへの対応として、被害を訴えた児童生徒のSOSを受け止め、寄り添うことの大切さを説いた。「いじめられている人に非はない」と強調。信頼できる関係性を築いた上で、必要な指導につなげるべきだと訴えた。

いじめは加害者と被害者だけの問題ではなく、周囲で助長したり、全体像が分かっていながら「第三者」「傍観者」「観客」となっ

石巻 いじめ問題で講演会



ていたりする人たちも含めた構造を問題として捉える必要があると説明。加害者だけを指導するのではなく、周囲にも働きかけ、状況を変えていくことが重要だとした。

質疑応答もあり「SOSを出せない人にはどう対応したらいいか」という問いに対しては、「(子どもたちが)1番つらい時にSOSは出せない。待つのではなく、日頃から声をかけて小さな変化に気づき、『いつでも話していい』というサインを示すことが信頼関係につながる」とアドバイスした。

講演会には石巻中学区と山下中学区の小学校や中学校の教員ら約110人が参加。児童生徒への向き合い方を学ぼうと熱心に耳を傾けた。